



4号

1998年 春号

イグナチオ教会と 愉快的仲間たち

「もはや二人ではなく一体 (One) である」 マタイ19・6

主なトピック

- 司祭からのメッセージ
- 特集 イースターってなんだろう？
- 夫の言い分、妻の言い分
- お世話になったヘルパー紹介
- 感謝の集いに出席して
- 教会からのお知らせ

新聖堂で初めての復活祭ミサ—4月12日(日)—

遷堂式



新聖堂復活のキリスト像

春、地上の全てのものが新しい命で躍動する季節！キリスト教最大のイベント、復活祭（イースター）が訪れます。

十字架の死から復活の生命へ、闇から光の世界へ… イースターは限りなく私たちを希望の世界へと導いてくれます。復活祭を待ちかねるように、このほど四谷の一角に姿を現した聖イグナチオ教会の新聖堂は「復活」をテーマに作られた教会堂なのです。その楕円形は卵の形すなわち復活の命を象徴しています。大聖堂の正面に両手を広げて待っていてくださるキリスト像は、復活のキリストです。堂内をぐるっと囲んでいる12枚のスタンドグラスは、大自然の復活の恵みを表しています。

今年は新しい大聖堂で初めてのイースターのミサがとりおこなわれます。

4月11日（土）復活の聖なる徹夜祭

4月12日（日）復活の主日ミサ

旧聖堂から新聖堂へ移る遷堂式が、去る1月10日（土）18：00から11日（日）にかけて行われました。両日あわせて8回のミサには約7400名の方が参列されました。参列者たちは旧聖堂から新聖堂に静かに進みながら感謝の気持ちの中に、別れ、期待、喜びをかみしめました。なお引き続き第二期工事として、中聖堂（マリア聖堂）、テレジアホール、鐘楼、集会室などが施工され、1999年5月には完成し、これをもって聖イグナチオ教会の新築工事は終了することになります。



遷堂式の模様（1月11日）

私の“復活”

四旬節（イースター・カレンダー参照）が始まる頃から、聖イグナチオ教会横の土手の草や木も、次第に芽を膨らませ、3月下旬から4月にかけて、だいこん草、れんぎょう、桜と春爛漫になります。冷たい冬の眠りから覚めて、息を吹き返す自然界のように、私たちも失いかけているものを取り戻す時にはどうでしょう。自分の人間性の復活、夫婦、親子の絆の復活、友情の復活、思いやりの心の復活、やる気の復活—心の喜びに向けて、いろいろ考えてみる良い機会だと思いませんか。



皆さん お元気で！カンガスです



前回の『One』（1997年秋・冬号）から今日まで教会の移り変わりは実に激しいものでした。あなた方の挙式した旧聖イグナチオ教会は、戦後、すぐに建てられました。この50年間、たくさんの方々に希望と生命とを与えてくださいました。この教会との別れは決してやさしいものではありませんでした。

結婚クラスのグループは昨年10月12日に感謝のミサを奉げ、また、11月23日には50年の間にこの教会で結婚した方々の感謝のミサがありました。なお11月30日

にたくさんのセミナー修了者のための感謝の集いがありました。そして、この教会で叙階し司祭となった何十人の神父たちが最後のミサを奉げる等々、次々旧い教会に別れを告げました。

今年1月10日と11日から、新しい教会を歓迎するためにさまざまの方々はせわしくなり、新しい教会の誕生を喜びをもって迎えました。

建物は変わりましたが、その魂である人間は残ります。多分これは、あなた方の家庭のシンボルではないでしょうか。結婚挙式によって、それまで赤の他人であった伴侶と溶け合って二人は『One』となりました。子どもの誕生とか、仕事、住居の移転などを経て、あなた方の家庭がどんどん発展し、成長してきました。

これから末永く、お二人は脱皮すべき事を脱皮し、勇気と希望を持って新しいチャレンジを迎えますように。

ルイス・カンガス

結婚セミナー、そしてこの『One』の生みの親のお一人である、聖イグナチオ教会 主任司祭のカンガス神父様は、今年の復活祭の後、広島府の祇園教会へ移られます。カンガス神父様、長い間本当にありがとうございました。私たち神父様の子供たちは、いつも神父様のことを思っています。お元気で。



特集

イースター(復活祭)ってなんだろう？

皆さん、知ってる？ イースターはキリスト教 最大のお祭りなんです！

復活祭とは？

十字架にかけられたイエス・キリストは、その3日目に死から甦り、人々の前に姿を現しました。このキリストの復活を祝う日がイースター(復活祭)です。イースターはクリスマスとは異なり、毎年日にちが変わります。春分の後の最初の満月の次に来る日曜日ということになっていますので、今年は4月12日(日)がイースターにあたります。

復活ってほんとう？

キリストに救世主として、地上的な富と力に満ちた王の姿を求めていた弟子たちは、キリストが捕えられ、十字架にかけられた時、怯えて逃げ出しました。弟子たちは「こんな筈じゃなかった。もう、おしまいだ。」と暗い気持ちになったことでしょう。ところが、イエスの復活を目撃した弟子たちは、怖じ気づいて3度もイエスを知らないと言い張ったペトロをはじめとして、殉教をものともせず、全世界へ教を宣べ伝え始めたのです。復活を現実に体験した弟子たちの豹変ぶりを思うと、キリストの復活がいかに大きな力の源になったかがわかります。キリストは、逃げ出した自分たちをゆるし、いつも一緒にいてくださるのだと、弟子たちは自信満々だったのです。

現代の私たちは、弟子たちのようには、復活を確認することはできません。しかし、キリストを信じる者はそれを確信し、自分の心の中の真実とするのです。

イースター・カレンダー

キリスト教では、イースターまでの40日間を四旬節(しじゅんせつ)と呼び、この間にさまざまな行事が行われます。たとえば「カーニバル(謝肉祭)」とは、四旬節が始まる前の数日間をさしますが、昔は四旬節の間は肉を食べることが禁じられていたため、その前に肉を食べて大騒ぎをしたのです。あの有名なりオ・デ・ジャネイロのカーニバルも、実はイースターにまつわる行事なのです。それでは、四旬節にどんなことが行われるかを簡単に見ていきましょう。

灰の水曜日:この日から四旬節が始まります。教会では、1年前の枝の主日(次項参照)でいただいた枝を燃やし、その灰を額につける儀式があります。灰を頭にかぶるのは悲しみを表し、灰の中に座するのは懺悔の表現でもあります。また灰は無価値、取るに足らぬものの象徴にもなっています。この日は、私たちがいずれ灰(塵)に戻る存在であることを思い起こし、食べ物を慎みます。今年は2月25日あたり、聖イグナチオ教会でも、すべてのミサの時に、この儀式を行いました。

枝の主日:復活祭の1週間前の日曜日です。この日からの1週間を聖週間と呼びます。キリストがエルサレムに入城された時に人々がしゅろの枝を持って歓迎したことに因み、教会では木の枝(日本ではそてつの葉)が配られます。この時は、こんなにキリストを喜び迎えた人々が、何日か後にはキリストの死を求めるのです。聖週間の出



図1<最後の晩餐>
レオナルド・ダ・ヴィンチ 1495~98

来事は、まさしく人間の心理のドラマです。ぜひ聖書を読んでみてください。

聖木曜日:復活祭の直前の木曜日です。キリストが十字架で亡くなる前日にあたり、この日に最後の晩餐が行われました。この時キリストはパンをご自分のからだ、ぶどう酒を血とさだめられ、これが後のミサの原型となりました。また、ミサのときに洗足式という足を洗う行事をすることがありますが、これはキリストが弟子たちの足を洗ったことに因みます。聖イグナチオ教会では、司祭が、子供たちの足を洗います。

(図1)



図2<ピエタ(キリストの遺骸を抱く悲しみのマリア像)>
ミケランジェロ1499年ごろ

聖金曜日:復活祭前々日の金曜日です。キリストがゴルゴダ(骸骨の意味)の丘で十字架につけられた日にあたります。ミサの後、主のいない教会は照明も暗く、花などの(ア)

♠♠♠♠♠ 夫の言い分・妻の言い分 ◆◆◆◆◆



— 結婚1年目の夫と妻より —

夫:「前夜、どんなに喧嘩しても、翌朝、仕事に出る僕を送り出す時だけは明るくしてほしい」

妻:「私がかたまに起こすヒステリーを、上手にあしらってほしい」

♥ お互いに甘えがちらついています。甘えられるのも、夫婦ならではと思いま

すが、夫も妻も自分の“甘え”を自覚し、甘えが通れば感謝、通らなくても相手を責めないようにしましょう。責めると“甘え”が“不満”になり、自分が苦しくなります。5年、10年、20年と経つうちにそれぞれの夫婦の間で甘えの許容範囲が分かってくるのではないのでしょうか。

それから、喧嘩はその日のうちに仲直りしましょうね。

(ヘルパーおばさん)

♣ 「行ってらっしゃい」と「お帰りなさい」の二つの瞬間には神秘があります。明るく見送ってくれれば、張り合いが出ます。笑顔で迎えられると、疲れと緊張が和らぎます。どんなに疲れてい

ても、お互いこの二つの瞬間だけは大切にしたいものです。昔、仕事に出かける亭主を、魔除けの火打ち石を鳴らして見送ったおかみさん—二人で今日一日を無事に生きたいというこの心意気—いいですねえ。

一方、配偶者の不満を上手に受け流すことは夫婦間の必要な“技”です。デパートの新入社員がまず習うことは、お客の苦情への対応で、どんなにまくしたてられても、決して反論せずに話を最後まで聴くことだそうです。不満は言ってしまえば、すっきりします。夫婦の場合も同じです。でも、不満をぶちまける頻度には気をつけましょう。

(愉快的仲間、若手婿殿)

(ㄨ) 装飾品は取り除かれ、ひっそりとし、信徒はキリストの死を悼み、食べ物を慎みます。(図2)

復活祭前夜(聖土曜日)：復活祭前日の土曜日。教会では夜、ミサに集まった人々は、ろうそくに火をともし、復活を祝います。聖イグナチオ教会でも毎年、聖堂いっぱい広がる光の波の中で、人々は復活の喜びを共にします。感動の時です。皆さんもいらっしゃってください。(図3)

復活祭：復活祭当日も前夜から引き続き、復活を祝うミサが行われます。

<聖書参照箇所>枝の主日：マタイ21章1-11、マルコ11章1-11、ルカ19章28-38、ヨハネ12章12-15 聖木曜日から復活祭まで：マタイ26章17-28章20、マルコ14章12-16章15、ルカ22章1-24章49、ヨハネ13章1-21章25



図3 八キリストの復活 ヴェル・グレコ 一六〇〇年ころ

たまご・ひよこ・うさぎ

— イースターミニ知識 —

皆さん、毎年春が近づく頃、色とりどりの卵やひよこ、うさぎといった、かわいいオブジェやチョコレートを街で見かけませんか？卵は、その無機質な殻の中から新しい生命が誕生するので、イースターの象徴なのです。硬い殻から出てくる黄色くて可愛いひよこも、葬られた後、洞窟の墓の入り口に置かれた岩を、打ち破って甦ったイエス・キリストを連想させます。多産なうさぎは強い生命力を意味し、またヨーロッパの民話の中に、うさぎが良い子たちに美しい卵をもってきてくれる話があります。イースターは、長い冬の束縛から地球を解放し、新しい希望、新しい生命、生活、繁栄を約束する春の始まりなのです。

世界のイースター

いろいろな国の方々に思い出話を聞いてみました

<アイルランド>

四旬節の時、父はキリストにならって犠牲を行うという意味で、食べ物を質素にし、いつも少し痩せました。復活祭の朝のミサの後、家族揃って、おいしいごちそうをいただくのがとても楽しみでした。

<スペイン>

聖木曜日から復活祭までは、ずっとお休みで、子供たちは教会に集まって、お祭りの準備をします。聖木曜日にはきれいな服を着せてもらい、女性はテハという被り物を身につけ、教会から教会へと訪ね歩きます。

日曜日の復活祭のミサの後、きれいに飾ったゆで卵、特別なソーセージ、長いレタと、甘くておいしい特別なパンを持って、若者たちは大人の付き添いのもとにピクニックに行ったものです。

<イギリス>

イースターが近づくとき卵を飾り、親族が集まってお祝いします。子供の頃、友達同士で卵をいくつ集めたかを、みんな得意気に話し合いました。

<フィリピン>

子供の頃から、死から甦ったキリストの存在を信じています。国全体の80%位の人々が聖金曜日には肉を口にしないで、入浴もひかえます。

<アメリカ>

お店にはうさぎや卵をモチーフにしたものが並びます。ニューヨークのイースター・パレードは全米にテレビ中継され、人々は奇抜な帽子をかぶったりします。

<ペルー>

復活祭一週間前から街全体が静かになり、TVやラジオも教会音楽しか流しません。復活祭の朝、おしゃれをして、母とずっと手をつないで歩き、幸せを感じました。

<イースターのごちそう>

- スタッフドエッグ
- 仔羊のロースト ワインソース
- いんげんと新じゃがの付け合わせ
- グリーンサラダ
- ブランデーづけのグレープフルーツ

卵は新しい生命を、仔羊はキリストの無原罪を、野菜は春の息吹きを…どう？イースターらしいでしょ？

<卵のデコレーション>

①細いテープでマスキングをして模様をつくってから、卵を染め、テープを外すと、白い幾何学模様が浮き上がる。

- ②卵を染めるのには白い殻のものをを使い、ほうれん草(緑)、ピーズ(赤)、玉ねぎの皮(茶)などと一緒にゆでる。食紅を使ってもよい。
- ③染めた後、殻を少量のオリーブ油で磨いでツヤ出します。



シリーズ

お世話になったヘルパー紹介

坂本 隆・広美 夫妻

新聖堂もとてもすてきですよ どうぞいらしてください

坂本さん夫妻は、セミナーを受講してご結婚半年余りでヘルパーになられたのですね。

—1986年、私たちの指導司祭だったボネット神父様のお誘いに、セミナーで受けた感激を伝えたいという気持ちでお引き受けしました。当時20代半ばの私たちよりも年齢が上の方もいらしたのですが、色々な方と出会い、一緒に悩んで考えることで、自分たちの結婚生活を確実なものにできたと思います。

そのころちょうど「おめでた」だったそうですが。

—はい、私の大きなお腹を見て受講者の方々にとって、将来的な見本になったと思います。また、産まれてからは娘を連れて土、日のセミナーに参加するようになりました。

それから合わせて8回もヘルパーをなさったのですから、相当な数の方と出会われたわけですが、11月の感謝の集いの時、皆さんと会われましたか。



—はい、あれは画期的でしたね。聖堂に入りきれないほど多くの方々が、旧聖堂にお別れを告げるためにいらっしやいました。私たちも旧聖堂にものごすごく愛着があり、1月の遷堂式でも悲しくて涙が出ると思っていたのですが、新聖堂は包み込まれるような暖かい感じがするので、抵抗感なく受け入れることができました。皆さんもどうぞ軽い気持ちで新聖堂を見にいらしてください。きっとどこかに自分の場所が見つかると思いますから。



結婚感謝の集い 今はなつかしい旧聖堂にて 1997年11月30日

**1997年11月23日、30日の両日曜日の午後、イグナチオ教会で
結婚式をあげたカップルがミサに集まりました**

結婚感謝ミサに出席して

年齢層の広い集まりとなった30日のミサではカンガス神父様が“皆様おめでとう、お疲れさま”と冒頭でご挨拶されました。“おめでとう、お疲れさま”——不思議な組み合わせですが、しかし、なんて思いやりの深いお言葉でしょう。

私たちは夫の両親が43年前に、私たちが7年前に結婚式を挙げましたので2世代にわたる参加となり、この日は4人肩を並べて席につきました。



二世代の柳谷家

結婚生活を始めてみると、良くも悪くもいろいろなことがありました。出席された方たちの胸にも、さまざまな思いが去来したことでしょう。そして、この不思議な組み合わせのお言葉を聞いて、全ての思いは喜びに、感謝に変わっていったのではないのでしょうか。

私たちが“ただいま”と、もどれる場所がある喜びをこのミサに出席して深く感じました。両親も“外では社会のためにいささかの貢献を果たし、内では二人の息子を育てあげ、そして素敵なお嫁さん(?)にも恵まれて感謝!”と、申しております。(柳谷)

結婚感謝の集いに出席して

私たちは1995年にセミナーを受け、9月に結婚式を挙げました。当時、共働きで忙しく、その後、教会に行けませんでした。昨年5月に誕生した長女 萌に、私たちが結婚した教会を、ぜひ見せたいと思い、“感謝の集い”に出席しました。教会にはあふれるほど多くの人々が集まり、厳かな雰囲気の中で式が進み、夫、妻、子供の祈りの言葉を声に出した時、とても心が洗われ、お互いを思いやる気持ちを再確認しました。そして、ここに集う皆が、かつてこの教会で結婚式を挙げたという目に見えないつながりを感じました。娘も、いつもとは違う私たち2人の顔や、讃美歌を歌う皆さんの姿を、不思議そうに見ていました。

また、久しぶりに、神父様、ヘルパーご夫妻、セミナーの仲間にお会いできて心がなごみ、たいへん幸せな時間をすごしました。(田中談)



田中豊彦・真友美夫妻と萌ちゃん

編集後記



編集局はこんな顔ぶれです。皆さんもお気軽にご参加ください。お待ちしております!

第3号のアンケートで、お互いに言えずにいること、口に出すほどではないけれど、ちょっと言ってみようかと募りました。多数の「言い分」をいただき、ありがとうございました。随時



取り上げてみたいと思いますのでお気軽にお寄せください。編集局一同

**教会からの
お知らせ**

日曜日のミサの時間が変わりました
6:00、7:30、9:00、
10:30、12:00 (英語)
13:30 (スペイン語)、18:00

- 4月5日(日) 枝の主日
枝の祝福式10:30
- 9日(木) 聖木曜日の典礼19:00
- 10日(金) 十字架の道行き15:00
聖金曜日の典礼19:00
- 11日(土) 土曜学校新学期(1年~6年生)
聖土曜日復活徹夜祭
洗礼式19:00
- 12日(日) 復活祭(10:30のミサはグレゴリアン)
日曜学校新学期(4歳児~6年生)
中学生会 高校生会新学期
- 19日(日) 白衣の主日 初聖体10:30
- 5月24日(日) 主の昇天
31日(日) 聖霊降臨の主日
- 6月7日(日) 三位一体の主日
堅信式15:00
(他教会所属でも受堅できます)
- 7月31日(金) ロヨラの聖イグナチオの祝日
- 8月8日(土) 平和祈願祭ミサ17:30
(千鳥ヶ淵にて)
- 15日(土) 聖母被昇天
ミサは日曜日と同じ
- 10月10日(土) クラス修了者赤ちゃんの
洗礼14:00
- 11月15日(日) 七五三祝福式 15:00

カンガス神父様新住所
〒731-0100 広島市安佐南区祇園3-6-1 祇園教会
TEL 082-874-5198 FAX 082-875-4505

クラスとセミナーはどう違うの?
「クラス」は片方または両方とも信者の方々のための結婚講座で、「セミナー」は信者でない方々のための結婚講座です。両方とも5ヵ月間続きます。

編集参加者(五十音順)
城間 正人 満尾 佳子
鈴木 肇/庸子 柳谷 晃子
林 彰 山本 浩
福富 達夫 内田 京子
藤枝 香織

発行 聖イグナチオ教会 結婚委員会
(担当/城間 正人・鈴木 庸子)
ご意見・記事投稿・アンケート返送は下記までお願いします。
〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5
聖イグナチオ教会 One編集局
TEL: 03-3263-4584
FAX: 03-3263-4585